

60歳以上のシニア世代の方々に青春時代に聴いた・唄った
思い出の歌、好きだった歌をお聞きました。

- 1位.....リンゴの歌 8人
- 2位.....憧れのハワイ航路 4人
- 3位.....新雪 3人
- 有楽町で会いましょう 3人

シニア世代 100人に 聞きました



赤いリンゴに 唇よせて
だまってみている 青い空
リンゴはなんにも いわないけれど
リンゴの気持は よくわかる
リンゴ可愛や 可愛やリンゴ

リンゴの歌

詞 サトウハチロー
曲 万城目正

あの娘よい子だ 気立てのよい娘
リンゴに良く似た 可愛い娘
どなたがいったか うれしいうわさ
かるいくシャミも とんで出る
リンゴ可愛や 可愛やリンゴ

次号では『わたしの心に
残る映画』を特集します。
応募方法は裏表紙に。

朝のあいさつ タベの別れ
いとしいリンゴに ささやけば
言葉は出さずに 小くびをまげて
あすも又ねと 夢見顔
リンゴ可愛や 可愛やリンゴ

「とんがり帽子」(『鐘の鳴る丘』主題歌)

西上綾子さん(宮前区・64歳)

終戦後何も無い時にラジオだけが楽しみだった。

「湖畔の宿」 塩田竹男さん(麻生区・70歳)

旧制中学の2年の教員で教官になられた時、
心で歌って耐えていた。

「かえり船」金子謙治郎さん(多摩区・76歳)

自分はシベリアへ抑留させられ、帰還船の中で初めて
聞いた日本の歌で、この時の自分達にピッタリ
だった。

「泣かないで」 岩崎孝一郎さん(高津区・65歳)

彼女に「もう遅くなるから帰ろうよ。また明日会える
じゃないの」と歌詞を言って遊んでいた。

「雪山賛歌」 斉藤弘さん(多摩区・61歳)

山の合宿で最終日、夜空をながめテントのそばで歌った。
満足感と素晴らしい星空は今も忘れられない。
そして今も自分に合った登山を妻と楽しんでいる。

「母あればこそ」 Yさん(中原区・63歳)

母の反対を押切って生れ故郷を離れようとした時、
母が涙を流しながら布団を縫っていた。

アンケートより原文のまま掲載

「リンゴの歌」 N・Mさん(中原区・72歳)
敗戦後、世の中が意気消沈していた頃、中学生
であった私が近所のお年寄りの集会の場で唄った
歌。新しい明るい元気の出る歌を紹介したつ
もりでしたが、あまりうまく唄えなくて、
ちょっと恥ずかしい思いをしたことを記憶して
います。(そんな私が今では72歳になりました)

「憧れのハワイ航路」

東矢高行さん(川崎区・67歳)

母(M 39年生)がハワイ生れの二世であり、
6歳で叔父の養女となり帰国(小学校に入るた
め)。その後、日本とハワイ(両親)と別居、
戦後ハワイ航路で往復した。(H元年没)

「誰か故郷を想わざる」

洪谷与四郎さん(高津区・79歳)

戦前、満州に渡った時、仲間と一緒に涙を流し
ながら歌った思い出の歌。